

今回は、令和6年11月6日(水)AM10:30～AP 東京八重洲ビル内10階にて開催予定の第4回ラビドール御宿・東京セミナー講演内容の概略をご紹介します。

○2030年問題・2040年問題とは？

これから5年ちょっとで、2030年になります。その時には生産年齢人口比率が60%以下となり、労働力が約640万人不足すると試算されています。これにより、経済の低成長や企業の活力喪失、国際競争力の低下が懸念されます。

更に2040年は、団塊世代が90歳以上に達し、全人口も1億1千万人ほどとなり、その内65歳以上の高齢者が35%以上になります。

生産年齢人口比率は約54%まで低下し、後期高齢者の増加に伴い、医療・介護に関する社会保障費が増大する一方、それを支える生産年齢人口(生産活動を支える15歳～64歳の人口)や納税も減少することが予測されています。

○入居契約重要事項説明書の難解用語をわかりやすく解説

読者の皆様が、入居契約重要事項説明書を開いたとき、最初に目にする難解用語が「介護保険事業者番号」「特定施設入居者生活介護」「介護予防特定施設入居者生活介護」です。この「特定施設入居者生活介護」の認定を受けているラビドール御宿は、要介護1～5の要介護者にラビドール御宿の介護スタッフが直接、介護サービスを提供します。

「介護予防特定施設入居者生活介護」の認定を受けているラビドール御宿は、要支援1～2の要支援者にラビドール御宿の介護スタッフが直接、介護サービスを提供します。

私どもは、千葉県指定第1277400048号の介護保険事業者番号を取得しているため、365日ホームスタッフが介護サービスを行えますが、介護保険事業者番号を取得していない高齢者施設は、施設のスタッフが直接介護サービスを提供できませんので、他の介護保険事業者とご本人が介護サービス契約を行い、外部から来た介護スタッフが介護サービスを実施します。

紙面の関係から大変申し訳ございませんが、医療・介護サポートとサークル活動のご紹介は、次号のVol.70に掲載させていただきます。